

大川子ども&内科クリニック INFORMATION

感染症 だより

6月は水痘と溶連菌感染症が流行しました。流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の小流行もありました。3人の麻疹の患者さんも受診されました。一人は20代の男性で、他は10ヶ月の女兒とそのお母さんでした。乳児の麻疹患者さんを診察すると、1歳以下で麻疹の予防接種の必要性を感じます。

水痘は抗ウイルス薬を服用すると水疱の全身への広がりがなくなり、2-3日で治癒傾向となります。あまり劇的に効くので本当に水痘であったか不安がある患者さんもいらっしゃいました。一部の患者さんでは抗体を調べて水痘であることを確認いたしました。

溶連菌感染症で流行したのはA群β溶連菌による咽頭炎です。咽頭痛、発熱、一部の患者さんには発疹も出現します。CCFCではストレプAによる迅速診断にて10分後には確定診断ができました。確定診断ができますとペニシリン系抗生剤(ピクシリン)を服用します。通常2日以内に解熱しますが、急性糸球体腎炎、リュウマチ熱の原因となることもあり、2週間服用を続けます。2週後に検尿および溶連菌関連の抗体検査をおこないます。6月から7月の第一週にかけて55人に検査を行ない40人の感染者を見つけました。検尿は1ヶ月後、3ヶ月後にも行ないますが、合併症を起こされた方はいませんでした。ただピクシリン無効な方が2名、薬疹出現者も2名ありました。その方も他剤に変更し治療しております。

7月はエンテロウイルスの季節です。エンテロウイルスには予防接種をするポリオウイルス以外に、毎年流行するコクサッキーウイルスやエコーウイルス等があり、細かい種類では数十種類となります。今年も7月初旬からエンテロウイルスによるヘルパンギーナや手足口病が流行しました。ヘルパンギーナでは激しい咽頭通と1-2日間の高熱が特徴です。手足口病では必ずしも発熱は伴いません。ウイルスは単独ではなく一夏に2-3種類のウイルスが流行します。このため同じ月に2回罹る、3回罹るといことがおきます。潜伏期は1-5日でこの時期を含む1-2週は飛沫感染、その後6-8週は便中に排泄します。他に感染させる期間が長いために小児科医の集まりでは症状がおさまれば登校登園を制限しても意味がないとしています。従って保育園に行けない時期は人によって異なりますが2日から4日ぐらいが一般的と思います。保育園・幼稚園関係者の方、宜しくご理解をお願いいたします。お母さん方にもわが子同様子供のお友達にも深い愛情をお願いいたします。



僕に名前をつけてください。

僕はCCFCのロゴマークのうさちゃんドクターです。院長のイメージに事務長の干支を合体させて先生の娘さんがデザインしました。現在顔だけのロゴと全身像の2種類があります。僕に可愛いニックネームを付けてください。貴方のお名前とニックネームを記載して投書箱にお入れください。採用者には記念品を差し上げます。

院内 機器

院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)

検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、自動血球分析器、自動検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター